

トビタテ！留学JAPANについて



令和5年10月11日（水）

文部科学省初の 官民協働プロジェクトによる支援

背景

- 留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」の機運醸成フラッグシッププロジェクトとして2014年開始

目的

- “産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で活躍できる人材”の育成
- 学生の海外留学を促進するという観点から、各領域でリーダーシップを発揮する多様な人材を支援し、海外留学の機運を高める

目標

- 学生日本代表を海外へ派遣：
10,000 人
- 民間からの寄附：
200億 円
- 産官学の出身者から構成される協働プロジェクトチームが事業を推進

Global Leader

留学を通じて最大限に成長し、将来の「グローバルリーダー」を目指す

Ambassador

留学期間中は、「日本のアンバサダー（大使）」として日本の良さを発信する

Evangelist

留学生増加のため「留学のエヴァンジェリスト（伝道師）」として活動する

トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラムを通じた育成の仕組み

派遣留学生の成長プロセス

留学目的の明確化

- 選抜による意欲の喚起
- 留学目的が明確になることにより、将来の具体的キャリアプランを描く

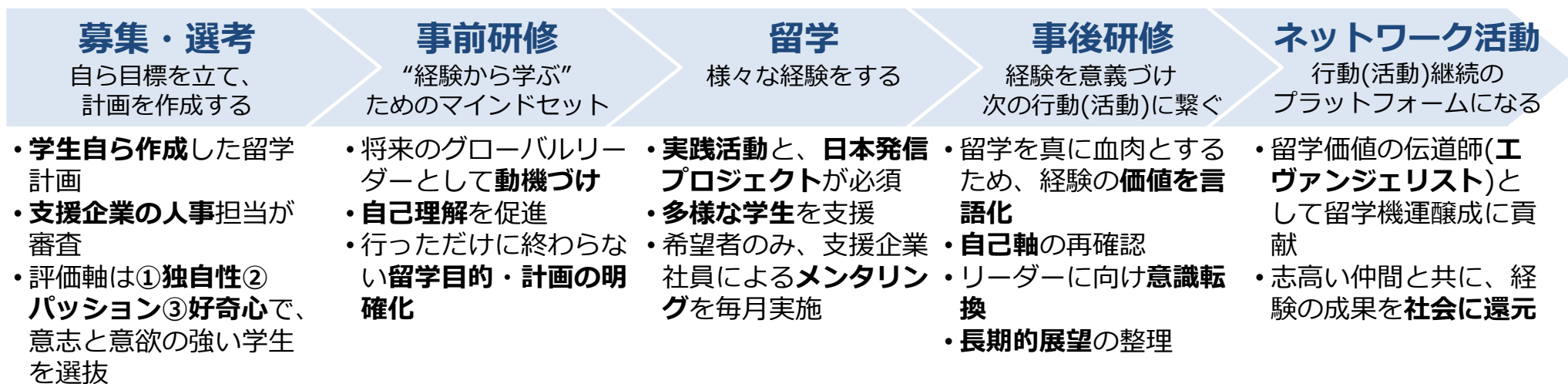
質の高い留学

- 明確な目的を持った優秀な学生が質の高いプログラムに参加し、大きな成果を得る
- 実践活動を通じ、留学後に生かせる多様な経験を積む

留学成果の定着等

- 留学経験者同志の意見交換や、成果報告会等を通じ、留学成果を言語化し真に身に着ける
- インターンや企業説明会等に参加し、企業理解を促進する事で雇用のミスマッチを防止

プログラムの流れ



5つの特徴

- ① 留学生自身による**計画作成**
- ② 留学中の**実践活動**
- ③ **日本発信プロジェクト**
- ④ 留学前後の**研修**
- ⑤ 留学後の**ネットワーク活動**および**エヴァンジェリスト活動**

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（第1ステージ）数値実績(1/2)

産業界で活躍する人材育成を目指したコース多様な6つのコースを準備

理系コースが大学生の約半数。2017年より同コース内に「未来テクノロジー人材枠」を設置

2014年	1. 理系、複合・融合系人材コース	2. 新興国コース	対象： 大学生以上 期間： 28日～2年 <small>※第12期以降は28日～1年</small>
	3. 世界トップレベル大学等コース	4. 多様性人材コース	
2015年	5. 地域人材コース		
	6. 高校生コース		

コース別 学生 採用実績

【大学生等コース】合計 6,082名

【採用実績】 *地域人材コース採用人数含む

第1期生：323人 (106校)
第2期生：256人 (110校)
第3期生：404人 (113校)
第4期生：437人 (141校)
第5期生：513人 (136校)
第6期生：507人 (138校)
第7期生：608人 (160校)
第8期生：458人 (133校)
第9期生：637人 (167校)
第10期生：434人 (138校)
第11期生：547人 (162校)
第12期生：514人 (158校)
第14期生：444人 (135校)

【高校生コース】合計 3,389名

【採用実績】 *地域人材コース高校生等枠採用人数8人を除く

第1期生：303人 (161校)
第2期生：511人 (331校)
第3期生：501人 (330校)
第4期生：535人 (336校)
第5期生：835人 (461校)
第7期生：704人 (368校)

累計(2021年9月時点)

9,471名

※大学生等コース第13期及び高校生コース第6期は、2020年4月に採用手続中止

【地域人材コース】合計23地域

【採択実績（累計）】

(H27年度地域事業)
 栃木県、石川県、三重県、岡山県、徳島県、
 香川県、熊本県、大分県、沖縄県、
 福島県いわき市、奈良県奈良市
 (H28年度地域事業)
 新潟県長岡市、島根県、佐賀県、宮崎県
 (H29年度地域事業)
 北海道、岩手県、福井県、静岡県、長崎県
 (H30年度地域事業)
 山形県、群馬県太田市、広島県福山市

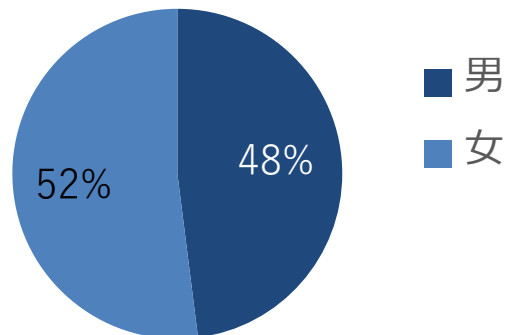
トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（第1ステージ）の数値実績(2/2)

大学生は男女比1:1、理系半数。留学先は2割がアジアなど、計121か国と多様。
 高校生は女子が7割。英語学修中心だが、座学に限らない多様な海外経験をしている。

大学生合格者 (※第1期～第14期)

(100%=6,067人；「他」を選択した7人除く)

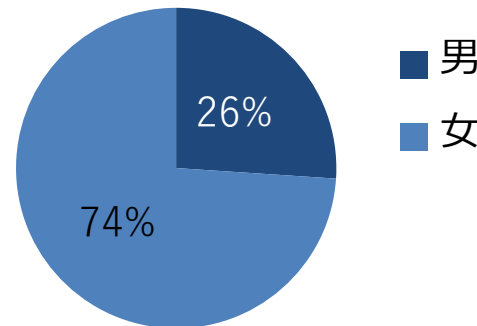
男女比 (%,人)



高校生合格者 (※第1期～第7期)

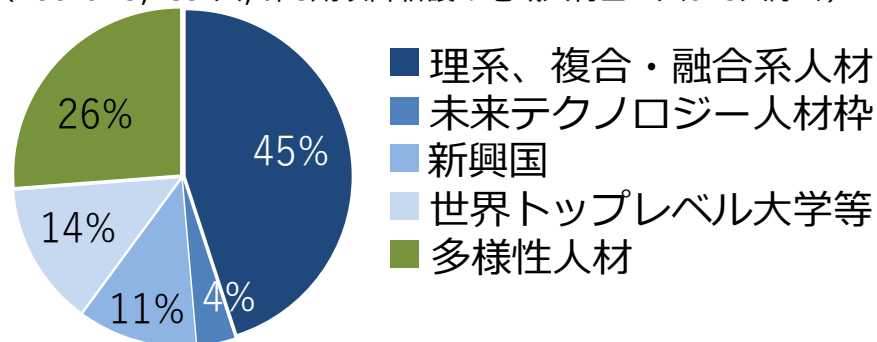
(100%=3,397人)

男女 (%,人)

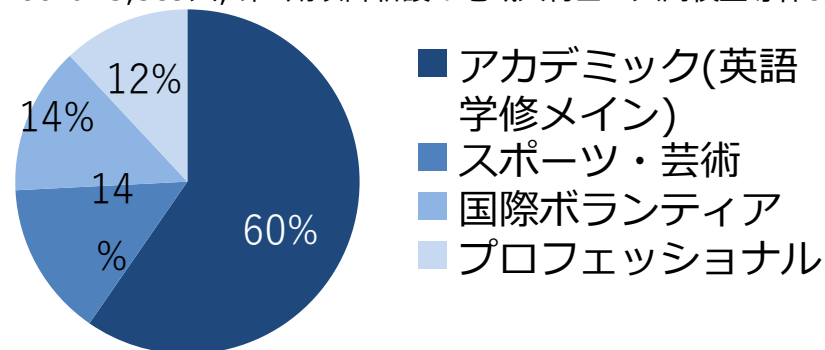


コース比 (%,人)

(100%=5,459人；第3期以降新設の地域人材コース615人除く)

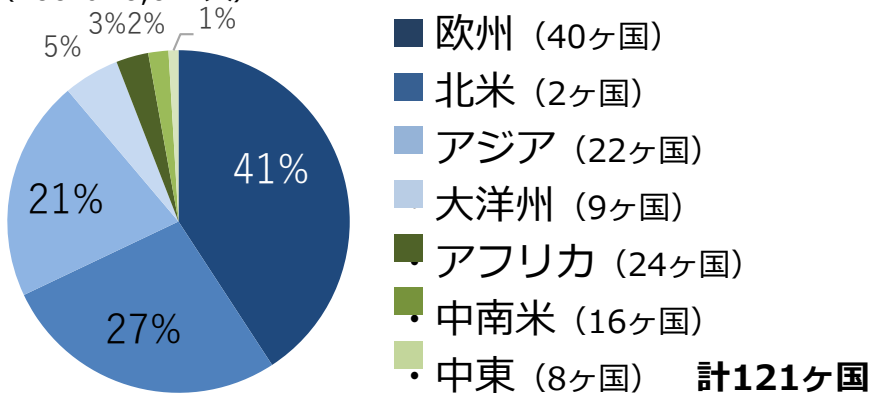


(100%=3,389人；第4期以降新設の地域人材コース高校生等枠8人除く)

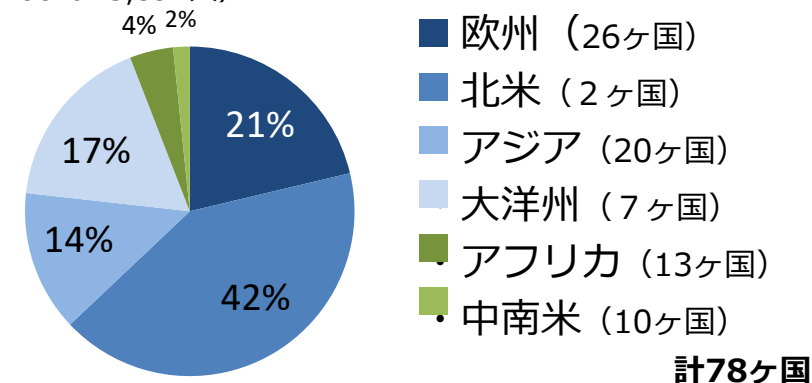


留学先比 (%,人)

(100%=6,074人)



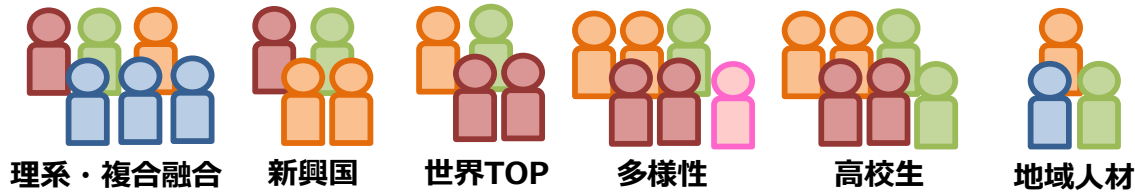
(100%=3,397人)



トビタテコミュニティの全体像

多様で活性化したコミュニティ

多様な若者が混ざり合うアルムナイ



維持・活性化・拡大を実現してきた二つの機能

機能①：安心・安全な交流の場

取り組み：「とまりぎ」、事務局企画等

⇒「人・交流」に興味のあるトビタテ生

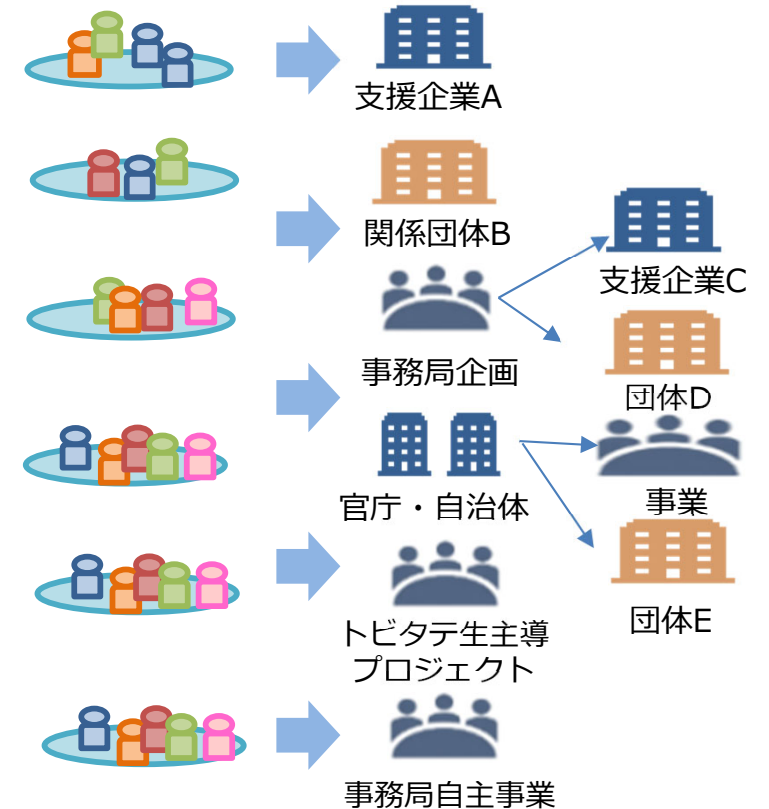
機能②：学びや成長の機会

取り組み：学習プラットフォーム（事務局主催）

⇒「知識・学習」に興味のあるトビタテ生

各所との繋がりによる価値創出

多様性が実現する各所との連携



➡ 「とまりぎ」と「学習PF」を両輪にしたコミュニティの活性化

➡ 各所と連携した社会への価値の還元

社会人のうち7割弱が産業界へ。うち3割強が支援企業・団体へ就職。

調査概要 (R4年4月時点)

調査対象

4,819名

- ※ 日本代表プログラム派遣留学生
1~11期 (辞退者除く)
- ※ 留学前/中/後全て含む

回答者

4,638名

- ※ 回答率**96.2%** (4,819名中)
- ※ H29 ~ R4年調査回答者の
累計として算出

社会人

3,263名*

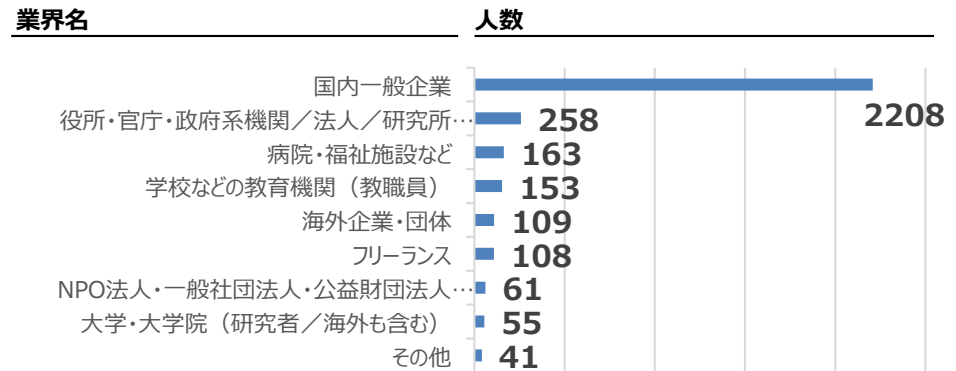
- ※ **70.3%** (4,638名中)
- ※ H29~ R4年調査回答者の
累計として算出

企業就職者

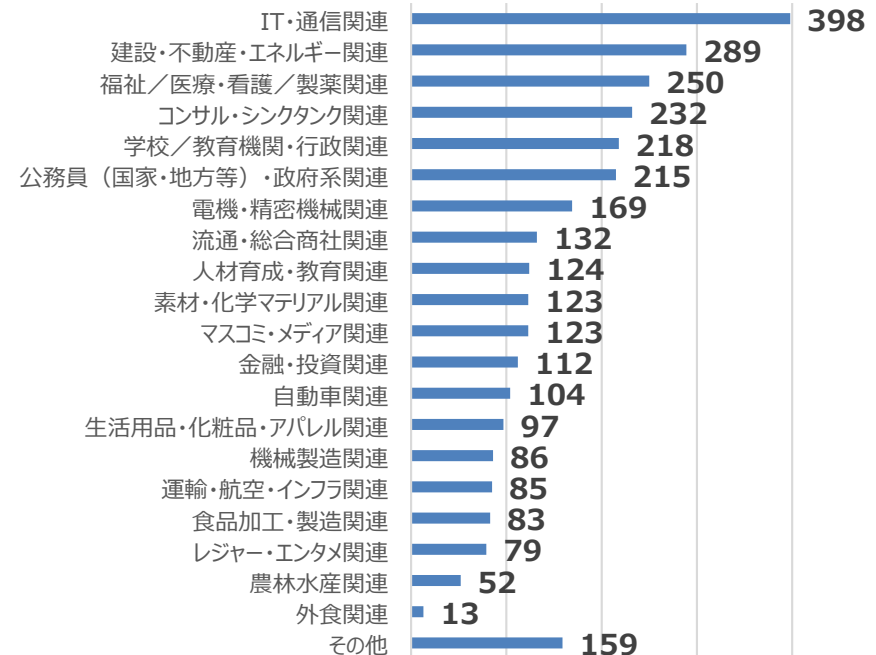
2,208名

- ※ 「国内一般企業」就職者のみ
- ※ **67.7%** (3,263名中)

R4年4月時点 社会人進路別人数 (所属先未記入除く)



R4年4月時点 社会人業界別人数 (有効回答のみ)



* 進路を「就職」「就職 (継続)」「転職」「起業」と選択した回答者

トビタテ！留学JAPAN第2ステージを通じて達成を目指すこと

教育未来
創造会議
第二次提言
目標

2033年度までに「日本人留学生数50万人※」を目指す

※ 高等教育段階（大学等）学位取得等を目的とする長期留学者：	6.2万人 →15万人
高等教育段階（大学等）中短期の留学者：	11.3万人 →23万人
中等教育段階（高校等）高校段階での留学者：	4.7万人 →12万人

トビタテが
担うべき役割

官民協働による「グローバル人材育成×コミュニティ」のフラッグシッププロジェクトとして
新たな留学支援モデルの創出と社会へのメッセージ発信に取り組み留学機運の醸成に貢献する

目的：留学機運醸成

手段①：留学の価値の社会への発信

手段②：ロールモデルの輩出

第2ステージ
で取り組む
三事業の概要

1 留学プラットフォーム

若者の背中を押す 環境の整備

- ・産業界、自治体、学校等による既存の留学支援の取り組みを集約
- ・留学奨学金制度や留学プログラム、留学啓発機会に全国のより多くの主体（特に自治体、高校、大学）が積極的に取り組む状態を目指す

2 新・日本代表プログラム

・社会へのメッセージ発信 ・多様な留学を支援して将来の日本を 支える人材を育む

- ・日本の未来を創るグローバルリーダー像と留学を通じた人材育成のアップデートする
- ・採用人数：大学生1,000名～
高校生4,000名～

3 価値イノベーション 人材ネットワーク

成長機会の提供と ロールモデルの発信

- ・国内外の多様なステークホルダーとの協働を通じた帰国後の人材育成機能の強化
- ・価値イノベーション人材の輩出

2027年末
までに目指す
状態

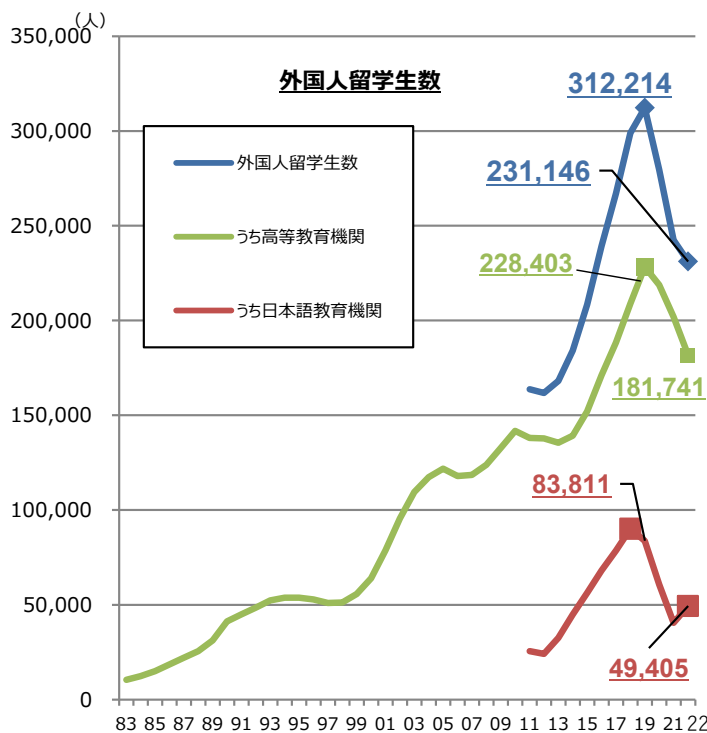
- ・留学という挑戦を社会全体が肯定し、応援しているというメッセージが浸透している
- ・若者の周囲の“大人”が留学を促進している
- ・留学を経済的に支援する制度が増加している

- ・日本代表PGMのアルムナイがコミュニティを通じて成長し、各所で活躍している
- ・日本代表PGMのアルムナイの活躍が認知されている

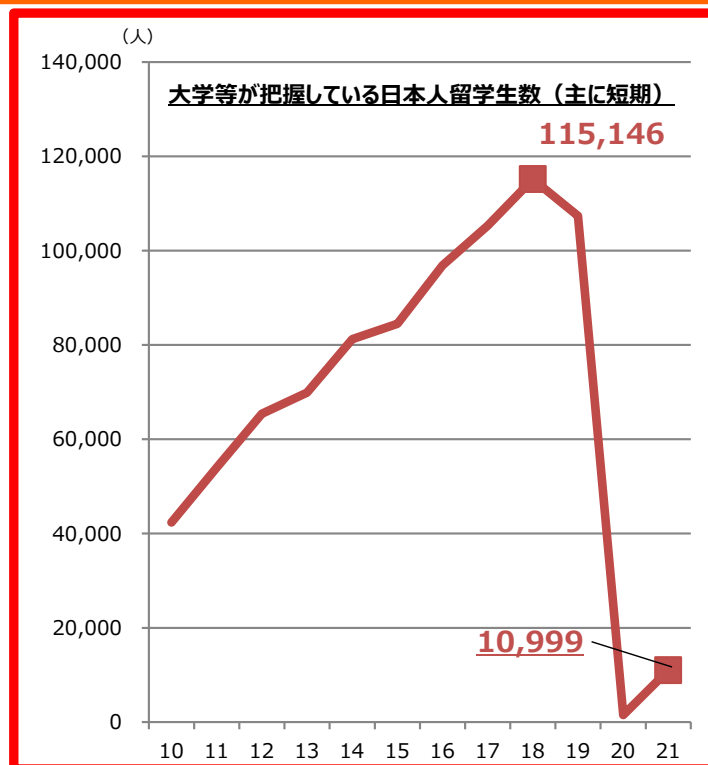
留学生交流の現状（高等教育段階）

政府方針について

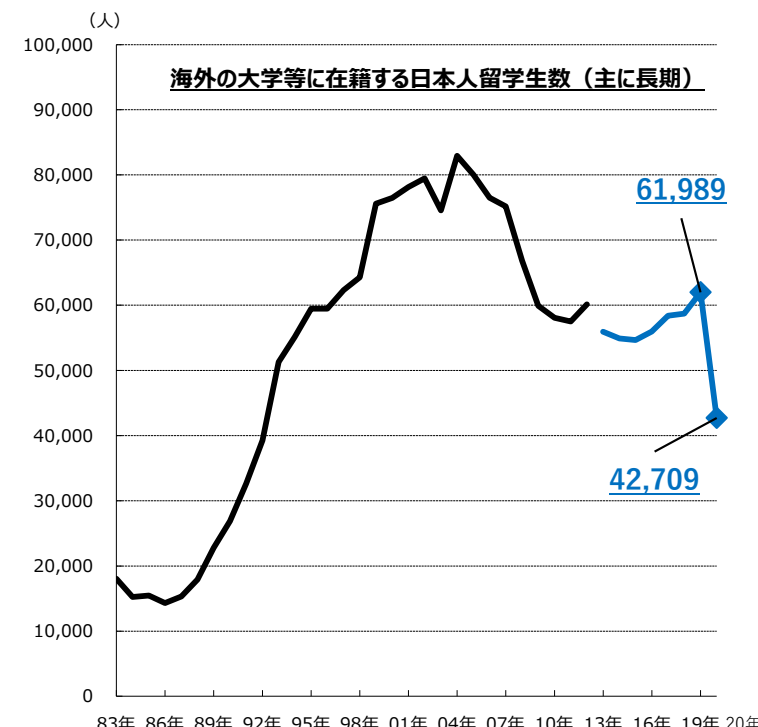
外国人留学生の受入れ：14万人（2012年）→30万人（2020年度まで）、日本人の海外留学（大学生等）：6万人（2010年）→12万人（2022年度まで）



（出所）日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」より。



（出所）日本学生支援機構「日本人学生留学状況調査」より。



（出所）文部科学省「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学数」等について」（令和5年3月7日）より。

直近の状況

（外国人留学生の受入れ）

- ◆2019年度に約31万人となり、「留学生30万人計画」達成。
- ◆2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、留学生を含めた外国人が新規入国ができなかったことから減少。
- ◆2022年度は、2022年3月以降、水際対策の段階的緩和により新規入国が進み、大学・短大や大学院の非正規課程の留学生は増加。
- ◆他方、国内からの進学者が多い、大学・短大の正規課程では、2021年度までの日本語教育機関の留学生数減少の影響により減少。

（日本人学生の海外留学）

- ◆日本の大学等に所属して海外大学等へ留学する学生数は、新型コロナウイルスの影響前の2018年度までに約11万5千人に達しており、意欲と能力のある若者に海外留学の機会を与えるという「留学機運醸成」の効果は確実に結実している。
- ◆しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、2020年度は大幅に減少。
- ◆2021年度は、ワクチン接種の進展、入国制限措置等の段階的緩和、JASSOの奨学金の段階的な支給再開等を受け、増加している。
- ◆また、海外大学や大学院等に在籍している、主に学位取得を目的とした留学者数は、新型コロナウイルスの影響前までは、近年着実に増加。ただし、影響後の2020年には減少。

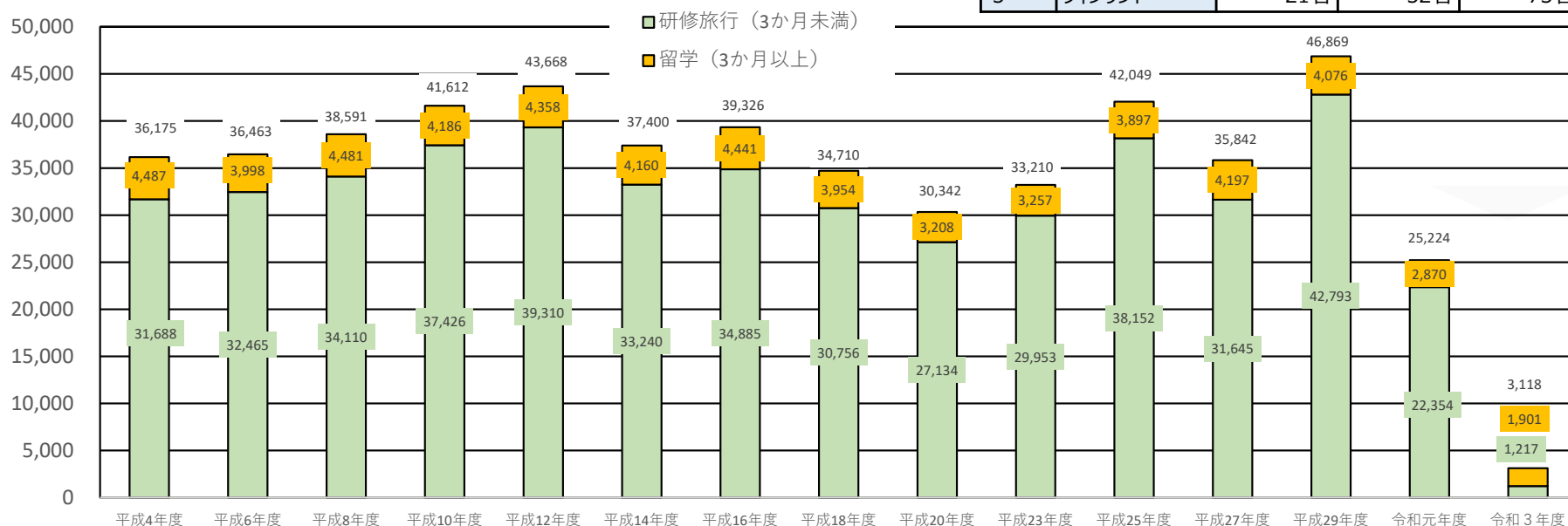
留学生交流の現状（高校段階）

政府目標である「第3期教育振興基本計画」における数値目標（令和4年度に日本人高校生の海外留学生6万人）の数値となる、高校生の留学生数は0.3万人[令和3年度]となり、前回調査時（平成29年度）の4.7万人から4.4万人減少。このうち、留学（3か月以上）が前回調査時の0.4万人から0.2万人減少の0.2万人となっており、比較的減少幅が小さい結果となった。

◆ 高校生の海外への留学・研修旅行について

- 留学・研修旅行を合わせて合計0.3万人。

派遣	国・地域名	長期	短期	合計
1	カナダ	973名	243名	1,216名
2	アメリカ	499名	400名	899名
3	オーストラリア	53名	164名	217名
4	イギリス	60名	98名	158名
5	フィンランド	21名	52名	73名



	平成4年度	平成6年度	平成8年度	平成10年度	平成12年度	平成14年度	平成16年度	平成18年度	平成20年度	平成23年度	平成25年度	平成27年度	平成29年度	令和元年度	令和3年度
研修旅行 (3か月未満)	31,688	32,465	34,110	37,426	39,310	33,240	34,885	30,756	27,134	29,953	38,152	31,645	42,793	22,354	1,217
留学 (3か月以上)	4,487	3,998	4,481	4,186	4,358	4,160	4,441	3,954	3,208	3,257	3,897	4,197	4,076	2,870	1,901
生徒数合計	36,175	36,463	38,591	41,612	43,668	37,400	39,326	34,710	30,342	33,210	42,049	35,842	46,869	25,224	3,118

Ⅲ.2033年までの目標

日本人学生の派遣



2033年までに**50万人**
(コロナ前22.2万人)

非英語圏の仏・独と同等の水準

<大学・専門学校等>

- 日本人留学生における学位取得等を目的とする**長期留学生**の数
6.2万人→**15万人**
- 協定などに基づく**中短期の留学生**数
11.3万人→**23万人**

<高校等>

- 高校段階での留学者数
研修旅行（3か月未満）
4.3万人→**11万人**
留学（3か月以上）
0.4万人→**1万人**



外国人留学生の受入れ・定着



2033年までに**40万人**
(コロナ前31.8万人)

留学生30万人計画の受入れ増加ペースの維持

<大学・専門学校・日本語学校等>

- 外国人**留学生**の数
31.2万人→**38万人**
- 全学生数に占める**留学生の割合** 学部：3%→5%
修士：19%→20%
博士：21%→33%

<高校等>

- 外国人**留学生**の数（高校）
0.6万人→**2万人**
- 全生徒数に占める**留学生の割合**
高校：0.2%→0.7%
- 留学生の**卒業後の国内就職率**（国内進学者を除く。）
48%→60%

教育の国際化



<大学等>

- 英語のみで卒業・修了**できる学部・研究科の数
学部：86→200
研究科：276→400
- 海外の大学との**交流協定に基づく交流のある大学**の割合
48%→80%
- ジョイント・ディグリー・プログラム**の数
27→50
- ダブル・ディグリー・プログラム**※の数
349→800

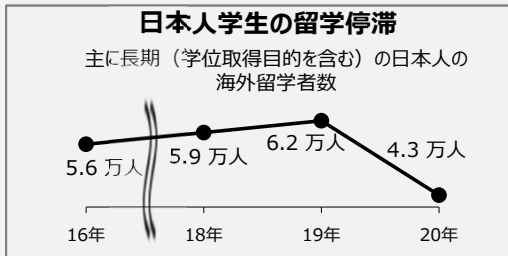
<中学・高校等>

- 英語で複数教科の授業を受けられる高校**（コース等含む）の数
50→150
- 対面での国際交流**を行う高校の割合
18%→50%
- 中学・高校段階における**オンライン等を利用した国際交流**を行っている学校の割合
20%→100%

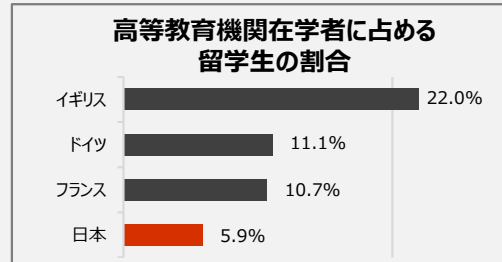
※海外の大学との大学間交流協定に基づき実施されているもの

現状

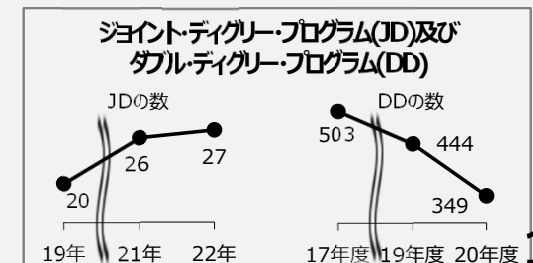
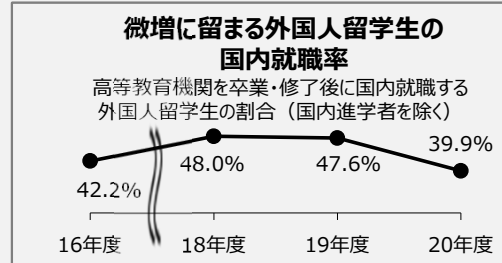
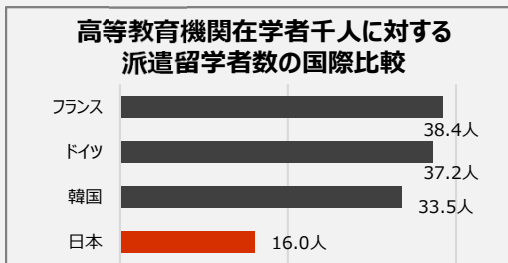
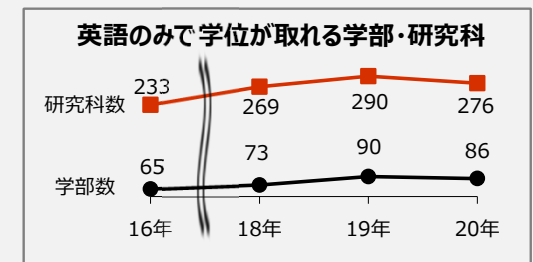
日本人学生の派遣



外国人留学生の受入れ・定着



教育の国際化



トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムの国費事業への波及について

●トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム

・充実した研修制度

（例 留学前の「留学計画の明確化」、留学後の「留学経験の振り返り」等）

・特徴的な留学プログラム

（例 個人の主体的な留学、実践活動を通じた課題へのチャレンジ、民間企業等と協働した学生の選考）

成果を反映

●海外留学支援制度（JASSO）

1. トビタテの成果を生かし、留学前の「留学計画の明確化」、留学後の「留学経験の振り返り」等についての研修を実施できるよう動画を作成し公開。
2. 「協定派遣型」プログラムの募集・選考プロセスにおいて、下記の少なくとも2つの要素を取り入れたプログラムを「トビタテ！留学JAPAN型」と位置付け、2023年度より実施。

①個人の主体的な留学

②実践活動を通じた課題へのチャレンジ

③民間企業等と協働した学生の選考

○2023年度（採用プログラム：8件、採用予定人数：457人）

【プログラム事例】

・東京学芸大学：教育実践・教育文化とその背景を探る海外フィールドスタディ [香港]

・芝浦工業大学：自動運転技術・EVを代表とする次世代自動車産業グローバルPBL